

Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定(変額保険用) 月次運用報告書(2008年3月)

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
2008年3月における特別勘定(変額保険用)の運用状況をご報告致します。
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.axa.co.jp/life/>

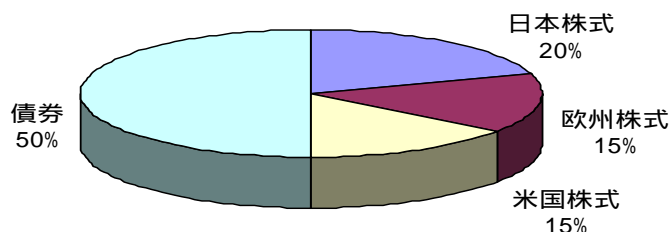
特別勘定の運用方針

日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。特別勘定の運用は、各投資信託(ファンド)の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社投資性プロフィットセンター ファンドマネジメント・チームが行います。特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社(運用協力会社)の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

(グローバルミックスの資産配分比率)



* 上記は設定当初の資産配分比率です。
* 資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

運用協力会社(ファンドの運用会社)のご紹介

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

- ・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
- ・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていきますので、合計等と合致しないことがあります。
- ・アクサ生命保険株式会社 ファンド・マネジメント部は、2008年4月1日付をもって、投資性プロフィットセンター ファンドマネジメント・チームに名称変更しました。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

運用環境について(2008年3月)

【日本株式市場】

日本株式市場の主要株価指数の当期末終値は、日経平均は 7.92%の12,525円54銭、TOPIXは 8.41%の1,212.96ポイントとなりました。当月は米景気後退と円高進行による国内景気悪化懸念から下げて始まり、17日には前週末の米大手証券ベアー・スターンズの実質破綻が伝えられ、金融システム不安が拡大したことやそれと共に円高が急激に進み一時1ドル95円台となったことから株価は急落し、日経平均で安値11,691円00銭をつけました。その後18日に米連邦準備制度理事会(FRB)が 0.75%の追加利下げ(3.00% 2.25%)を行い、米欧中銀による市場への流動性供給拡大策などが好感され市場は下げ止まり、下旬にかけて株価はやや戻しましたが、24日に発表された法人企業景気予測調査で景況判断指数が2四半期連続で低下し景気先行き見通しの悪化を受け、日本株式市場は軟調な動きとなりました。

東証33業種では内需やデフエンス業種が値上がりしました。上位業種は空運業(+0.51%)、小売業(1.20%)、水産・農林業(1.38%)、食料品(1.41%)、パルプ・紙(1.49%)となりました。一方、下位業種は非鉄金属(16.47%)、その他金融業(13.75%)、石油・石炭製品(13.31%)、証券、商品先物取引業(13.06%)、輸送用機器(12.62%)となりました。

【米国株式市場】

米国株式市場の主要株価指数の月間騰落率は、S&P500種株価指数は 0.60%、ダウ平均株価は 0.03%、ナスダック指数は+0.34%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題に端を発した世界的なクレジット市場の混乱から全般的に投資家の慎重姿勢が崩れない中、月初から月半ばまでの米国株式市場は軟調に推移しました。また、米国住宅差し押さえ件数の増加、米国大手証券会社の資金繰り悪化等の金融市場の混乱の長期化が重石となり、米国株式市場は大きく下落しました。その後、破綻が懸念されていた米国証券大手のベアー・スターンズ社の救済策がまとまったことや、連邦準備制度理事会(FRB)が決済システムに影響のない証券会社にも公定歩合での資金貸し出しを認めるという金融界全体の救済策に動いたこと、18日にFRBが 0.75%の追加利下げ(3.00% 2.25%)を実施したことなどを受けて、米国株式市場の下落には一旦は歯止めがかかり、下旬から月末にかけてわずかながら上昇に転じました。

【欧州株式市場】

欧州株式市場の主要株価指数の月間騰落率は、MSCI欧州株価指数は 2.91%、FT100指数は 3.10%、仏CAC指数は 1.74%、独DAX指数は 3.16%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

欧州株式市場は米国市場の冴えないマクロ経済指標、また金融機関の資金繰り懸念などから月半ばにかけて下落基調で推移しました。月前半は、米国で2月の雇用統計が予想外の悪化を見せたことや、住宅金融会社の経営不安が明らかになるなど、悪材料が重なったことから欧州株式市場も下落しました。しかし、月半ばに入り、米連邦準備制度理事会(FRB)など中央銀行5行のクレジット市場の安定化を意図した資金供給策などの救済策が複数発表されたことをきっかけに欧州株式市場は反発しました。更に発表されたJPモルガンによるベアー・スターンズの救済買収の決定、また買収価格の引き上げ、米国での予想を上回る景気指標、並びに原油など素材価格の下落なども好感され、月末に向けて徐々に欧州株式市場は持ち直し、ほぼ月初の水準まで戻して月末を迎えました。なお、当月、欧州中央銀行(ECB)は、政策金利を据え置きとしました。

【国内債券市場】

国内債券市場は、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題に伴う信用収縮懸念の深刻化や世界的な景気減速懸念、商品市況の高騰、急激な円高進行等を材料に、金利低下の動きとなりました。

当月は、2月米雇用統計の非農業部門雇用者数が2ヶ月連続でマイナスとなり、悪化したことや2月米ISM製造業景況指数、非製造業景況指数共に、景況感の境目となる50を下回ったことから、米国景気減速懸念が深刻化しました。月央には、米大手証券会社の資金繰り悪化のニュースが市場参加者の悲観論に拍車をかけ、米連邦準備制度理事会(FRB)による公定歩合の緊急引き下げと資金供給拡大策の発表につながりました。米金融システム不安の強まりは、世界的な金利低下につながりました。1月機械受注が市場予想を大幅に上回ったことや、10-12月期GDPの改定値が弱含んだ設備投資を受けて大幅に下方修正されるとした市場予想に反して、小幅修正に留まったこと等、国内指標には債券売り材料もあったものの、10年国債利回りは1.3%を割り込み、一時は1.25%を割り込む水準まで低下しました。

月後半は、市場センチメントの強弱を反映して、1.3%割れ水準で方向感の無い一進一退の動きを強めました。流動性不足に陥った証券会社は、NY連銀や他の大手証券会社による資金供給や買収提案によってひとまずは危機を脱したものの、市場には依然として金融システム不安に対する疑心暗鬼が募った状況となりました。従って、日本債券市場は、海外の市場動向をにらみながらの神経質な展開に終始し月末を迎えました。

(参考指標)

		2008年2月末	2008年3月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1324.28 ポイント	1212.96 ポイント	-8.41%
	日経平均	13603.02 円	12525.54 円	-7.92%
	新発10年国債	1.355 %	1.275 %	0.080低下
米国	NYダウ	12266.39 ドル	12262.89 ドル	-0.03%
	S&P500	1330.63 ポイント	1322.70 ポイント	-0.60%
	NASDAQ	2271.48 ポイント	2279.10 ポイント	0.34%
	10年国債	3.509 %	3.410 %	0.099低下
欧州	FT100	5884.30 ポイント	5702.10 ポイント	-3.10%
	CAC40	4790.66 ポイント	4707.07 ポイント	-1.74%
	DAX	6748.13 ポイント	6534.97 ポイント	-3.16%
	独10年国債	3.891 %	3.899 %	0.008上昇
為替	米ドル/円レート	104.78 円	100.19 円	4.38%円高
	ユーロ/円レート	158.98 円	158.19 円	0.50%円高

* 各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利(日本)、ジェネリック米国利回り10年(米国)、ドイツ国債10年の利回り(欧州)を表示しております。

* 為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

特別勘定の資産内容について(2008年3月)

【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のINDEX」とは、弊社が変額保険「Global Mix」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。



日付	INDEX
07/04/30	1.017
07/05/31	1.027
07/06/30	1.025
07/07/31	1.007
07/08/31	0.993
07/09/30	1.007
07/10/31	1.009
07/11/30	0.982
07/12/31	0.978
08/01/31	0.935
08/02/29	0.941
08/03/31	0.914

【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
-2.84%	-9.25%	-9.41%	-7.01%	5.07%	-8.59%

注) 設定日である2000年8月1日を1.00としたパフォーマンスを示しています。

注) 騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。

注) 上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。

注) この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

【特別勘定資産の内訳】

項目	金額 (千円)	構成比 (%)
預貯金・コールローン	554,566	1.6
日本株式型投資信託 (アクサR)	3,402,641	9.6
日本株式型投資信託 (アクサR)	5,127,704	14.5
米国株式型投資信託(アクサR)	5,270,491	14.9
欧州株式型投資信託(アクサR)	3,466,864	9.8
日本債券型投資信託(アクサR)	17,102,758	48.2
その他	544,351	1.5
特別勘定合計	35,469,378	100.0

注) 金額の単位未満は切り捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っていません。

【保有契約高】

項目	件数 (件)	金額 (千円)
有期型	1,111	2,561,940
終身型	56,207	301,553,951
合計	57,318	304,115,892

注) 金額の単位未満は切り捨てとしました。

【特別勘定の解説】

当特別勘定は原則として、50%を安全資産での運用にしております。

積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の25%、欧米株式で25%の資産配分といたします。

リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

【今後の運用方針】

特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

(アクサ生命保険株式会社 投資性プロフィットセンター ファンドマネジメント・チーム)



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

日本株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: TOPIX

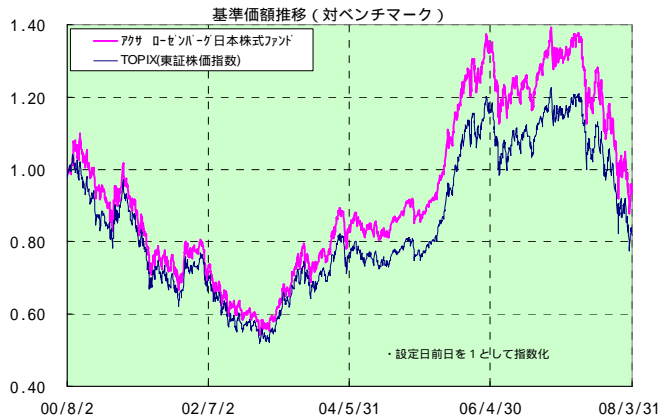
【運用状況】

当月は、ベンチマークであるTOPIXが 8.41%であったのに対し、当ファンドは、8.14%となり、+0.27%のアウトパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、前月に引き続き株式の売買が活発に行われた銘柄が下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、下落した電気機器、その他金融や電気・ガス業などをベンチマーク比で少なめに保有していたことはプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、上昇した共英製鋼(5440)やユニー(8270)をベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落した日本碍子(5333)を保有していなかったことはプラスに寄与しました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)



順位	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.3%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.0%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.1%
4	松下電器産業	電気機器	1.9%
5	三菱商事	卸売業	1.7%
6	日本電信電話	情報・通信業	1.6%
7	任天堂	その他製品	1.6%
8	キヤノン	電気機器	1.5%
9	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.5%
10	新日本製鐵	鉄鋼	1.4%
合計			20.6%
組入銘柄数			447銘柄

*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

日本バリュー株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: TOPIX

当月はベンチマークであるTOPIXが 8.41%となったのに対し、当ファンドは 7.87%となり、0.54%のアウトパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、前月に引き続き株式の売買が活発に行われた銘柄が下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、下落した医薬品、電気機器やその他金融などを少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。
個別銘柄では、下落したソニー(6758)をベンチマーク比で少なめに保有していたことや、上昇した麒麟ホールディングス(2503)やアサヒビール(2502)などをベンチマーク比で多めに保有していたことはいずれもプラスに寄与しました。

【今後の運用方針】

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム)



順位	銘柄	業種	比率
1	三菱商事	卸売業	3.4%
2	松下電器産業	電気機器	3.3%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	3.0%
4	日本電信電話	情報・通信業	2.9%
5	三井物産	卸売業	2.9%
6	本田技研工業	輸送用機器	2.8%
7	東芝	電気機器	2.4%
8	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.3%
9	国際石油開発帝石ホールディングス	鉱業	2.3%
10	ミレアホールディングス	保険業	2.3%
合計			27.6%
組入銘柄数			382銘柄

*上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (代表)
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

欧州株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社)

[運用方針]: 幅広い投資対象(欧州約3,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。

「アクサ・ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

[ベンチマーク]: MSCI 欧州株価指数(為替ヘッジあり)

[運用状況]

当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が 4.55%であったのに対し、当ファンドは 4.09%となり、+0.46%のアウトパフォーマンスとなりました。

当月の欧州株式市場は、前月に引き続き純資産利回りの高い銘柄が上昇する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比較して多めに保有していたことがプラスに寄与しました。

業種別では、上昇した自動車、保険や化学などをベンチマーク比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

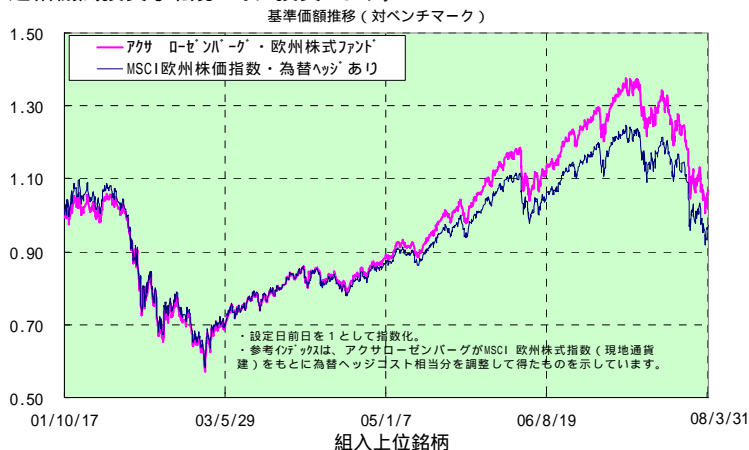
個別銘柄では、下落したテクノロジー製品・機器のNOKIA CORPORATION(ノキア、フィンランド)や資本財のSIEMENS AG(シーメンス、ドイツ)などを少なめに保有していたことや、上昇した銀行のBANCO POPULAR(ボプアル・エスパニョル銀行、スペイン)を多めに保有していたことはいずれもプラスに寄与しました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。

割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社)



	銘柄	業種	比率
1	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.8%
2	トタル SA	エネルギー	2.3%
3	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.8%
4	BP PLC	エネルギー	1.8%
5	ネスレ	食品・飲料・タバコ	1.7%
6	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	1.7%
7	ENI SPA	エネルギー	1.6%
8	シーメンス	資本財	1.4%
9	ロイヤルバンク・オブ・スコットランド	銀行	1.3%
10	アリアンツ	保険	1.3%
合計			17.7%
組入銘柄数			324銘柄

* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

米国株式ファンド(運用会社:アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社)

[運用方針]: 幅広い投資対象(米国約6,500社が対象)を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。

「アクサ・ローゼンバーク・米国株式ファンド(A) <適格機関投資家私募>」に投資します。

[ベンチマーク]: S & P 500(為替ヘッジあり)

[運用状況]

当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が 4.03%であったのに対し、当ファンドは 3.78%となり、+0.25%アウトパフォーマンスしました。

当月の米国株式市場は、これまで相対的にみて、株価の上昇していた銘柄が引き続き上昇し、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがプラスに寄与しました。

業種別では、下落したその他金融をベンチマーク比で少なめに保有していたことや、上昇した石油サービスやタイヤメーカーなどを多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

個別銘柄では、下落したヘルスケア機器・サービスのWELLPOINT INC(ウェルポイント)を少なめに保有していたことや、上昇した耐久消費財・アパレルのNIKE INC -CL B(ナイキ・インコーポレーテッド)やテクノロジー製品・機器のAPPLE(アップル)を多めに保有していたことはいずれもプラスに寄与しました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。

割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

(アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社)



	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	3.9%
2	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.7%
3	シェブロン	エネルギー	1.9%
4	ヒューレット・パカード	テクノロジー製品・機器	1.8%
5	IBM	テクノロジー製品・機器	1.7%
6	ファイザー	医薬品・バイオテクノロジー	1.6%
7	AT&T	電気通信サービス	1.6%
8	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	1.6%
9	ザ・ユカ・コーラ・カンパニー	食品・飲料・タバコ	1.5%
10	プロクター・アンド・ギャンブル	家庭用品・パーソナル用品	1.5%
合計			19.8%
組入銘柄数			293銘柄

* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

日本債券ファンド(運用会社: アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社)

【運用方針】: 主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

【ベンチマーク】: 日興債券パフォーマンス・インデックス中期総合

【運用状況】

当月の当ファンドは+0.40%(ベンチマークは+0.34%)となりました。中長期的な観点では、景気、物価情勢は概ね日銀の展望に沿う形で推移してきたといえるものの、消費関連指標に力強さは見られず、足もの指標が示すように日本経済の方向性の不透明感が高まっています。米国景気後退懸念が更に強まり、国内景気減速懸念も強まりを見せる中、更なる金利低下余地は限定的であるものの、金利が上昇する可能性は低いとの判断を維持しました。前月初旬より保持していた、イールドカーブのフラットニング(平坦化)ポジションを、ある程度フラットニングが進行したとの判断から、月中旬に中立に戻しました。また月前半に、前月からタイミングを探っていたデュレーションの長期化を小幅ながら行い、月後半まで保持し、その後、中立に戻しました。これらの投資行動はパフォーマンスに対して小幅にプラス要因となりました。また、社債等の対国債利回り較差は月央までは引き続き急拡大したものの、その後、金融システム不安が多少払拭されたのを受け、急激に縮小したことから、結果的に社債等の保有がパフォーマンスへプラス寄与となり、対ベンチマークでプラスのパフォーマンスとなりました。

【今後の運用方針】

中長期的な観点では、景気、物価動向は概ね日銀の展望に沿った形で推移していると言えます。しかし、外的要因としての米サブプライムローン問題の波及等依然として不確定要素が色濃く残り、日銀は以前よりも増して、それらの点について詳細に点検を行う必要があると考えられ、金融政策の据え置きが続いています。米国が利下げを行うなど、依然として海外からもたらされる不確実性を強く意識しなければならない環境が継続しており、国内景気への配慮も必要となる状況です。当面は、米サブプライムローン問題の波及やそれに伴う金融システム不安、及び国内景気への影響を十分に配慮しながらの舵取りをしいられるだけでなく、閉塞感が強まっている国内景気への配慮も鑑みでの金融政策が必要となっています。金融緩和期待の声も聞かれるなど、不確実性の高まりは金利の振れ幅拡大につながる可能性が高いことから、その点を注視して運用を行う必要があると思われます。当面は、国内要因のみならず外的要因の影響についても大いに注視をして行く方針です。

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本債券運用チーム)

注)ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

基準価額推移(対ベンチマーク)



信託財産の構成

	組入比率	デュレーション
公社債	99.5%	4.38年
短期資産等*	0.5%	19.18年
合計	100.0%	4.45年

*債券先物を含む

公社債の内訳

	組入比率	デュレーション
国債	83.7%	4.62年
地方債	0.0%	0.0年
特殊・財投債	2.4%	3.14年
金融債	0.5%	2.21年
社債等	13.0%	3.16年
コールローンその他*	0.5%	19.18年
合計	100.0%	4.45年

*債券先物を含む

格付別債券構成比率

格付区分**	構成比率
AAA	3.9%
AA	90.4%
A	4.8%
BBB	0.9%
BB以下	0.0%
合計	100.0%

** S&P格付を優先

注意事項

変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとじて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

変額保険のリスクについて

市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777(代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約月別の運用実績の例

(一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年)

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成12年 8月 1日	1,000	-371	1,000	-337	-8.59	-1.17
平成12年 9月 1日	1,000	-379	1,000	-344	-9.95	-1.37
平成12年 10月 1日	1,000	-357	1,000	-323	-7.37	-1.02
平成12年 11月 1日	1,000	-337	1,000	-304	-5.27	-0.73
平成12年 12月 1日	1,000	-315	1,000	-283	-2.86	-0.39
平成13年 1月 1日	1,000	-295	1,000	-264	-0.71	-0.10
平成13年 2月 1日	1,000	-307	1,000	-275	-2.53	-0.36
平成13年 3月 1日	1,000	-271	1,000	-240	1.64	0.23
平成13年 4月 1日	1,000	-250	1,000	-220	3.92	0.55
平成13年 5月 1日	1,000	-273	1,000	-243	0.61	0.09
平成13年 6月 1日	1,000	-265	1,000	-235	1.23	0.18
平成13年 7月 1日	1,000	-251	1,000	-221	2.63	0.39
平成13年 8月 1日	1,000	-223	1,000	-195	5.66	0.83
平成13年 9月 1日	1,000	-183	1,000	-156	10.19	1.48
平成13年 10月 1日	1,000	-134	1,000	-109	15.83	2.29
平成13年 11月 1日	1,000	-150	1,000	-124	13.45	1.99
平成13年 12月 1日	1,000	-155	1,000	-129	12.40	1.86
平成14年 1月 1日	1,000	-155	1,000	-129	12.05	1.84
平成14年 2月 1日	1,000	-126	1,000	-101	15.12	2.31
平成14年 3月 1日	1,000	-133	1,000	-108	13.83	2.15
平成14年 4月 1日	1,000	-147	1,000	-121	11.76	1.87
平成14年 5月 1日	1,000	-140	1,000	-114	12.25	1.97
平成14年 6月 1日	1,000	-142	1,000	-116	11.61	1.90
平成14年 7月 1日	1,000	-103	1,000	-78	15.92	2.60
平成14年 8月 1日	1,000	-67	1,000	-42	19.95	3.26
平成14年 9月 1日	1,000	-63	1,000	-38	19.94	3.31
平成14年 10月 1日	1,000	-33	1,000	-7	23.36	3.89
平成14年 11月 1日	1,000	-29	1,000	-4	23.34	3.95
平成14年 12月 1日	1,000	-43	1,000	-17	21.20	3.67
平成15年 1月 1日	1,000	-14	1,000	11	24.38	4.24
平成15年 2月 1日	1,000	13	1,000	39	27.35	4.79
平成15年 3月 1日	1,000	20	1,000	47	27.85	4.95



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (大代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成15年 4月 1日	1,000	25	1,000	52	28.00	5.06
平成15年 5月 1日	1,000	9	1,000	36	25.39	4.71
平成15年 6月 1日	1,000	-3	1,000	22	23.24	4.42
平成15年 7月 1日	1,000	-21	1,000	4	20.65	4.03
平成15年 8月 1日	1,000	-30	1,000	-4	19.12	3.82
平成15年 9月 1日	1,000	-37	1,000	-11	17.80	3.64
平成15年 10月 1日	1,000	-38	1,000	-12	17.27	3.60
平成15年 11月 1日	1,000	-47	1,000	-22	15.67	3.35
平成15年 12月 1日	1,000	-42	1,000	-17	15.86	3.45
平成16年 1月 1日	1,000	-52	1,000	-27	14.29	3.19
平成16年 2月 1日	1,000	-62	1,000	-37	12.66	2.90
平成16年 3月 1日	1,000	-72	1,000	-47	11.07	2.60
平成16年 4月 1日	1,000	-83	1,000	-59	9.29	2.25
平成16年 5月 1日	1,000	-80	1,000	-56	9.25	2.28
平成16年 6月 1日	1,000	-69	1,000	-44	10.19	2.56
平成16年 7月 1日	1,000	-78	1,000	-54	8.71	2.25
平成16年 8月 1日	1,000	-59	1,000	-35	10.48	2.75
平成16年 9月 1日	1,000	-58	1,000	-33	10.26	2.76
平成16年 10月 1日	1,000	-56	1,000	-31	10.08	2.78
平成16年 11月 1日	1,000	-50	1,000	-25	10.32	2.92
平成16年 12月 1日	1,000	-59	1,000	-35	8.87	2.58
平成17年 1月 1日	1,000	-72	1,000	-47	7.05	2.12
平成17年 2月 1日	1,000	-69	1,000	-45	6.94	2.14
平成17年 3月 1日	1,000	-81	1,000	-56	5.26	1.68
平成17年 4月 1日	1,000	-79	1,000	-55	5.07	1.66
平成17年 5月 1日	1,000	-61	1,000	-37	6.67	2.24
平成17年 6月 1日	1,000	-69	1,000	-45	5.37	1.86
平成17年 7月 1日	1,000	-79	1,000	-54	3.94	1.41
平成17年 8月 1日	1,000	-88	1,000	-64	2.57	0.96
平成17年 9月 1日	1,000	-91	1,000	-67	1.81	0.69
平成17年 10月 1日	1,000	-118	1,000	-95	-1.58	-0.64
平成17年 11月 1日	1,000	-110	1,000	-87	-1.04	-0.43
平成17年 12月 1日	1,000	-130	1,000	-130	-3.60	-1.56
平成18年 1月 1日	1,000	-143	1,000	-142	-5.34	-2.41
平成18年 2月 1日	1,000	-152	1,000	-151	-6.65	-3.13



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (大代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別 運用実績 (%)	年複利 (%)
	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)	保険金額 (万円)	変動保険金額 (万円)		
平成18年 3月 1日	1,000	-144	1,000	-144	-6.17	-3.01
平成18年 4月 1日	1,000	-149	1,000	-148	-7.01	-3.57
平成18年 5月 1日	1,000	-144	1,000	-143	-6.81	-3.61
平成18年 6月 1日	1,000	-111	1,000	-111	-3.62	-1.99
平成18年 7月 1日	1,000	-110	1,000	-110	-3.94	-2.27
平成18年 8月 1日	1,000	-107	1,000	-107	-3.96	-2.40
平成18年 9月 1日	1,000	-121	1,000	-144	-5.82	-3.72
平成18年 10月 1日	1,000	-119	1,000	-139	-5.88	-3.96
平成18年 11月 1日	1,000	-120	1,000	-137	-6.33	-4.51
平成18年 12月 1日	1,000	-118	1,000	-132	-6.45	-4.88
平成19年 1月 1日	1,000	-132	1,000	-144	-8.28	-6.68
平成19年 2月 1日	1,000	-138	1,000	-148	-9.24	-7.97
平成19年 3月 1日	1,000	-136	1,000	-144	-9.41	-8.72
平成19年 4月 1日	1,000	-133	1,000	-138	-9.41	-9.41

注(1) 保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

(2) 契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成20年3月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

(3) 年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 TEL 03-6737-7777 (大代表)

編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター